

## 大切なことを教えてくれた友達

小 六

ぼくが、保育園に通っていたときのことです。クラスの中に一人、障害のあるAさんがいました。Aさんは、この保育園にくる前は、他の保育園にいました。その保育園で、Aさんは、

「これは危ないから、やらなくていいよ。」

「これはぼくがやっておくよ。」

と、特別にとってもやさしく接してもらっていたそうです。ぼくは、初日にその話を聞いて、「ぼくも前の保育園のように、Aさんにやさしくしよう。」と思いました。でも、Aさんは何でも自分でやろうとしました。ぼくが、  
「やっであげようか。」

と声をかけても、Aさんは、

「ぼく、自分でやりたいから、やるよ。」

と言って、つくえを運んだり、お昼ご飯の準備や片付けをしたりしていました。

それから何日か後に、Aさんのお母さんに会いました。Aさんのお母さんは、

「最近、Aは自分で何でもやりたいって言って、何でもやらせると、いつのまにかできるようになってるのよ。」  
と言っていました。

確かに、Aさんがこの保育園に来たときにはできなかったことが、できるようになっていました。話に聞いていたAさんとは、全く別人でした。なわとび作りや、まりぶくろ作りなど、大変な作業もがんばって自分でやって、完成させていました。

そんなAさんの姿を見て、ぼくは、「た

ぶん、今までは、何でもみんながやっていて、Aさんは自分でやりたいことができなかつたんだな。」と思いました。

この保育園に来てすぐのころは、みんなはなかなかAさんに近づこうとしなかつたけれど、約一か月でAさんはみんなと仲よくなっていました。

前の保育園では、遊ぶときも、みんなAさんにわざとつかまったり、わざとAさんの投げるボールに当たったりして、Aさんもつまらなそうだったと、Aさんのお母さんから聞きました。それと比べて、この保育園に来てからのAさんは、とても楽しそうで、毎日家でいろいろなことを話してくれると、言っていました。ぼくは、Aさんのような障害のある人に対して、今までは自分にできることはすべてやってあげよう、と思っていましたし

た。でも、Aさんの気持ちを知って、障害のある人もない人と同じように、自分のことは自分でしたいんだということが分かりました。だから、ぼくは、障害のある人がくらしやすい社会になることが大切だと思いました。

これから、もしAさんのような障害のある人に出会ったら、特別あつかいをせずに、他の人と同じように助け合って、仲よくしたいと思います。

今、Aさんがどこでどんなふうに生活しているか分からないけれど、「周りの子と同じようにやりたいことをやって、笑顔で生活していたらいいな。」と思います。そして、もしAさんに会えたら、「ぼくに大切なことを教えてくれてありがとう。」と伝えたいです。